

▶ 第17章

日中の相互不信脱却と安定的関係の構築 ——米国中心主義思考のリスク

新潟大学 准教授

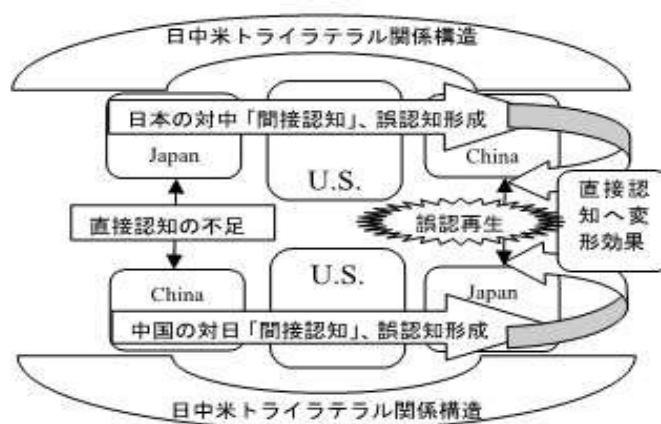
張 雲

【ポイント】

- ▶ 過去半世紀にわたり、日中関係は国際関係と両国の国内ダイナミクスの変革とともに変遷してきた。国交正常化後の約 30 年間は概ね「友好」の時代だったが、新世紀に入り経済依存度は上昇したものの、政治的には相互不信が高まった。2019 年に両国首脳が「新時代の日中関係」構築に合意、相互不信の構造から脱却の兆しもあったが、最近では再び大きく後退・漂流へ揺れている。
- ▶ 日中米 3 カ国の文脈で日中の国際秩序認知、相互認知、自己認知の変遷を分析すると、「米国中心主義思考」の構造が浮かび上がる。すなわち、日中とも相互戦略的認知は主として、米中関係および日米関係に従属していた。日中関係の大きなリスクは、日中ともに深く抱えてきた「米国中心主義思考」である。
- ▶ 日中関係の次の 50 年間の持続的な安定のために「米国中心主義思考」からの脱却が必要だ。経済的な互惠だけでは安定的な関係構築には不十分で、新しい視座と構想が求められる。日中は互いに戦略的に直視・重視し、互惠と互敬の精神に基づき、強靱な安定を築き、関係発展の好循環を創造し、国交正常化の「友好」の初心の志の実現を継続的に努力しなければならない。



米国中心主義思考と日中相互誤認知の形成メカニズム



資料：筆者作成